

◆ 三十一番(今井光子)

平和の問題で二点質問いたします。

核兵器廃絶について質問します。

核兵器のない世界を目指して、五月にニューヨークで二〇一〇年NPT核拡散防止条約再検討会議が開催されます。奈良県から、私も含め代表団が要請行動に参加する予定です。二十一世紀の今も二万六千発の核兵器が世界の平和と安全を脅かしています。どうしたら人類は核兵器のない世界に到達できるのか、今や核兵器のない世界への追求は、核保有国も含めた世界の圧倒的世論になっています。核保有国には、二〇〇〇年五月のNPT会議で核兵器廃絶の明確な約束を実行することが求められています。二月には、パリで核兵器廃絶を掲げる団体グローバルゼロの初めての世界サミットが開かれました。グローバルゼロは、二〇〇八年に期限を切った核兵器廃絶協定の成立を目指す国際的な運動体として、カーター元アメリカ大統領、ゴルバチョフ元ソ連大統領などの呼びかけで結成されました。国際連合のバン・ギムン事務総長は、核兵器に一ドル費やされれば、学校、医療、命につながる技術の研究など、費やされるお金が一ドル減ることになると指摘し、グローバルゼロは単なるスローガンではなく、我々は達成できし達成しなければならぬ現実目標であると強調されました。

一方では、核兵器があることが平和を保つという考え方、核抑止力論があります。元アメリカ国防長官のジョージ・シェルト氏は、核兵器は非道徳だ。現代社会にあって、一体だれが核兵器のボタンを押せるだろうか。何十万人、何百万人という人が死ぬとわかっている核兵器を落とせるわけがない。文明国の指導者であれば核は使えない。使わなければ抑止力にならないと述べています。一九五〇年、スウェーデンのストックホルムで開かれた平和擁護世界会議には、世界中から核兵器廃絶を求めるストックホルム・アピール署名五億人が集まりました。その国際世論が、当時トルーマン大統領が朝鮮戦争で、核兵器

は使いたくないが、使う用意があると発言しながら、核兵器の使用をさせなかった大きな力になりました。

今度の世界会議に向けて、日本では一千二百万人の署名が取り組まれています。地元の北葛城郡では先日、王寺町、河合町、上牧町、広陵町の首長さん全員が署名をしていただき、賛同をいただきました。奈良県では県下の全自治体が非核平和都市宣言を行っております。

知事は、核兵器のない世界についてどのように考えているのか。また、核兵器のない世界に到達するために奈良県でどのようなことができるかと考えているのか、お聞かせください。

平和問題、特に核兵器のない世界についての所見のお問い合わせがありました。

核兵器のない世界の実現は、県民はもとより、すべての人々の切なる願いであると思っております。

本県における取り組みについてでございますが、本県には世界的な歴史文化遺産が数多く存在し、それを本当に力を込めて保存・継承してきたところでございます。さきの大戦で空襲が少なかったことも、歴史文化遺産に対する人類共通の認識があったためと言われておりますし、最近では、中国の梁思成先生など、奈良を守るために尽力をしていただいた方の顕彰も行われようとしております。歴史文化遺産は国民を守る手段にもなり得るものという証明があるかと思えます。本県では、昭和六十三年に国際文化観光・平和県を宣言いたしました。このような精神を受け、今日でも、本県が有する歴史文化遺産などの特性を活用して、奈良とゆかりの深い中国や韓国などの東アジアの国々との交流を推進しようとしております。既に、韓国の百済地方に当たります忠清南道とは文化・観光交流協定を締結しておりますし、昔の長安の都のありました中国陝西省とは、平城遷都一三〇〇年を契機として、友好提携の締結を目指して交流を進めてきております。国際的な観光と文化の交流は、平和の醸成につながるものであります。このような東アジアの地方政府との交流そのものが、核廃絶に向けての奈良県らしい取り組みであると思っております。平城遷都一三〇〇年祭の中で、このような東アジアを視野に入れた取り組みが、地域の平和の実現に向けて一歩でも前進する契機となりますように努めていきたいと考えております。